

2020年11月28日 東洋大学ボランティアカフェ ONLINE

「意外と広い？ふくしの話～ふだんの、くらしの、しあわせを～」第3回を開催しました

ボランティア支援室では、気楽な雰囲気の中でボランティア・社会貢献活動に関する話題に触れることのできる機会として「東洋大学ボランティアカフェ（以下、ボラカフェ）」を開催。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンライン開催を行っています。

11月度は福祉編として、3回シリーズを企画しました。既報の第1回・第2回に引き続き、第3回を以下の通り開催しました。

- ・日時：2020年11月28日（土）9:30～12:00
- ・会場：オンライン会場
- ・リソースパーソン：賀上 桜子さん
（東洋大学社会学部社会福祉学科3年、バリアフリーサークル歩み）
- ・スペシャルゲスト；高本 恵さん（株式会社 LITALICO LITALICO ワークス札幌大通、東洋大学社会福祉学科卒業生）
山本 詩菜さん（高知大学理学部4年、社会福祉法人福祉楽団 内定者）
平岩 なつみさん（福祉 KtoY 代表、コミュニティデザイナー）
- ・モデレーター（進行役）：日比野 勲（東洋大学ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）
- ・参加者：17名

第3回は11月ボラカフェで1番多くの参加者が集まりました。お話をしてくださるのは、福祉に携わる仕事をしている3名のスペシャルゲストです。

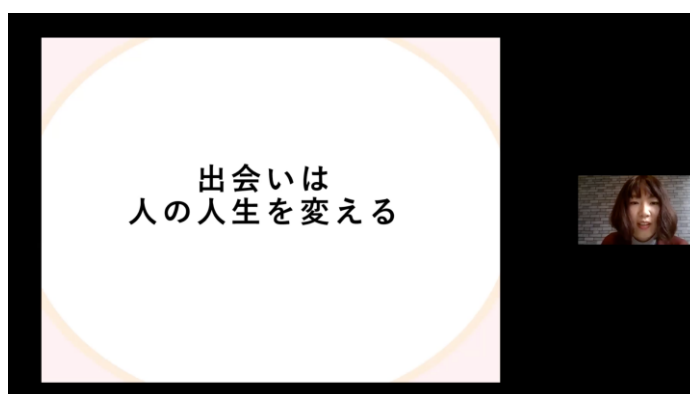
1人目。東洋大学を卒業後北海道へ渡り、社会福祉法人ゆうゆう（生活介護事業所）を経て現在株式会社 LITALICO で就労相談員として働く高本さんは、「〇〇さん」をキーワードにお話をしてくださいました。「みんな」とは誰か、福祉とは誰のためにあるのかということを自らに問い、「それは『〇〇さん』というたった一人の人のため」であるのではないかと、ということをお話しいただきました。仕事を通して得た経験と考えたこと、特に自閉症の方が書いた個性的な文字が印象に残っています。関わる具体的な相手を考えることから、1人の人を思うことの重要性を感じました。

2人目は社会福祉法人福祉楽団に内定した高知大学4年生の山本詩菜さん。理学部で地震について研究しており、一見福祉とは無縁そうでした。しかし、災害ボランティア活動を通じて聞いた生の声と、日本語パートナーズ派遣事業（主催：国際交流基金アジアセンター）での経験を通して、「社会的マイノリティ」を感じたそうです。この社会に対する生きづらさが「障害」と結びつき、福祉の世界で働くことに繋がったというお話でした。

3人目は平岩なつみさん。福祉を「ふだんの くらしの しあわせ」と考え、デイサービス職員の他に、幸せを創造するコミュニティデザイナーとしても活動されています。きっかけは周りを

見渡すと福祉職で働く人がいなかったこと。福祉を目指す若者のキャリア支援が必要と思い、出会いの場を創出するべくご縁を求めてさまざまな場所に出向いているそうです。それらの思いが、福祉職のイメージを変える「福祉 KtoY」の立ち上げ、医療福祉系コミュニティ「WelCaMe」の運営に表れているのだと感じました。

福祉を学んだ人だけが福祉の道に進む、あるいは福祉の道に進んだ人はみんな同じような経歴をたどってきているとは限らないと改めて思うような回でした。参加者の中には「福祉」への関心が高まり、選択肢の多さに驚きと発見をした人も多いのではないのでしょうか。スペシャルゲストの個人、海外、防災、キャリアという別の切り口からのお話は、全て「福祉」と結びつきました。「福祉」はより身近にあり、意外と広いのだと感じました。



(東洋大学社会学部社会福祉学科3年、リソースパーソン 賀上 桜子さん)